

しかし、教育の中身は、旭川の学校も都会の学校とほとんど変わらないです。札幌などに絶対に負けていないという思いと、こんなに良い学校が旭川にあるのに、わざわざ札幌に行く必要があるのかという自負めいたものもあるのですが、それでも当校を選んでもらえないのは、旭川市民に応援される学校になっていないからだ、と。

「地域との密着」は、市民の皆さん、特に親御さんに応援してもらわないうちの学校の生徒は絶対に増えないと考えたからです。

まず「いろいろな経験をさせる」

岸谷 生徒の教育に話を戻すと、生徒全員でADWの基調講演を聞きに行った話もそうですが、

良いか悪いか、身につくかつかないかは、本人次第と思います。ただ、色々なことを経験してもらう、ということに関しては、ある程度、学校が主導権を握り、連れていきます。

教職員たちも生徒みんなに色々なことを経験させたいという思いを持っているので、うちの学校でしかできない経験はたくさんあると思います。

選挙の時もそうです。18歳から選挙権があり、生徒たちは人生初めての選挙を、ここにいる学生時代に経験するわけです。選挙の時は毎回そうしています。候補者に学校に来て頂き、生徒の前で話をしてもらっています。

若い子たちに選挙権があっても、選挙に行く若者がすごく少ない。大人たちは若者に投票に行っ

てもらいたいと思っっているのに、手をこまねいているだけ。私はそれがすごく嫌です。

ある専門学校の理事長が自身の学校でも候補者に来てもらおうと教職員に提案したところ、そういう政治的なことはやってはいけないと、教職員全員に反対されたという話も聞きます。どうしてやっていけないのかが分からない。政治に関しても、自ら考え、行動する、そんな若者が少しでも増えていくと、私は思っています。

「心・技・礼」を指針に教育実践

——多分、そのことと繋がると思いますが、専門学校はスキルを磨くという学校で、そのスキルのベースになる「人として」の教育、その辺に

して取り組んでいることはあるでしょうか。

岸谷 ありきたりとい

この学校は、「心・技・礼」を指針に教育しています。文字通り「心の教育」「技の教育」「礼節の教育」の3つです。理美容師としておもてなしの心、喜んで頂ける技術テクニク、そして、いつでも明るくあいさつ出来る人です。

人に会ったら「こんにちは」「別れるときは「さようなら」といってあげようのだと、私は思うし、これは家庭の中でやるべきものです。もちろん、正しいの家庭でやっていると思いますが、でも、やっていない家庭も結構ある。特に中学生、高校生になると、「こんにちは」「さよなら」を言わないう子がどんどん増えていきます。

理美容学校から理美容界、美容業界という接客業に送り出すときに、お客さまに「こんにちは」といって当たり前。それを教え込むのに2年間で必ずしも100%全員が

気持ちよく心からあいさつが出来ようになるわけですが、入学して来た時よりは確実に成長して卒業させています。先生たちは、その部分で丁寧に、徹底的に細かくやっています。

教員のスキルアップと海外との交流

——これからどういう目標を掲げて…。

岸谷 今、学校として考えているのは、先生たちの生徒愛の一層の磨き上げです。先生たちは十分にそれを持ってやって

くれているのですが、生徒愛をいかにもっと表現していくか、です。

たとえば美容室での話、お客さまに飲み物がないと自ら気がつかないとダメです。それと同じで、朝、生徒をパッと見たときに、あの子とこの子、ちょっと調子が悪そうだな、機嫌が悪そうだなとか分かります。経験だと思えます。そういう生徒たちがいれば、休み時間にそつと行って、声をかけてあげられるような、教育者としてのスキルの向上です。

見ると人口が増えている国がたくさんあります。であれば、海外との交流は必須です。当校の外部講師や役員の中にアジア圏と繋がりのある方がいて、一緒に仕事をしたいという話があり、そういう方と、お互いに持ちつ持たれつしながら進めていければと、考えています。

理美容教育特区の認定を念頭に

岸谷 というのも、日本の美容文化は、特にアジアではすごく評価されています。海外の方が、日本で美容を学ぶことに憧れています。当校がい意味で起点となり、海外諸国との美容交流が出来るれば、旭川市にとってもいいことだと思いいいと思っと思っています。

さらに、日本では外国人が日本国内で働ける、技術職に関する特区（労働特別区域）を決めていますが、残念ながら理美容に関しては、北海道にはまだ特区がありません。当校に入学し、日本語を理解し、スキルを身につけ、日本の国家資格を取得しても、北海道では働けないのです。

東京とか大阪とかの大都市が特区となっていて、就職先は本州の大都市になってしまふ。何とか北海道のため、旭川のために、その道筋を付けられないか動きました。が、国から特区はこれ以上、増やさないと言われました。

ました。何か違う方法はないのか、また別の形で動いてみようと考えています。諦めてはいません。

需要増想定される訪問美容などにも

岸谷 18歳人口はこのあと、ほぼ今のままでは

増えることがありません。とにかく海外を巻き込んでいかないと、理美容学校として生き残っていくのが大変です。

私が18歳の時、当校は定員オーバーで、それから30年経って、当時の半分になりました。そう考えると、今の当校の生徒数も定員の半分になるといふことでつじつまは合います。そんなことを言っていられないので、次なる作戦を考えていかなければなりません。一方、これは業界全体の話になりますが、これ

から訪問美容、訪問美容の需要が確実に増えます。養護施設、老人施設に入居している方々の髪の毛のケアの仕事は、確実に増えるわけです。そこも理美容業界とも連携を取り、さまざまな形を視野に入れながら、動きたいと考えています。

理美容業界と学校と、あと国家資格の制度についての情報もある程度、持っています。何となく私の頭の中で整理できる部分が多いので、多方面から見た訪問理美容、あとは先ほどの海外の話とかの諸々を含め、旭川にある理美容専門学校として、今後も地域のために、地域に暮らす人たちのために少しでも貢献できるように、頑張っていきたいと思っっています。

——長時間にわたり、誠にありがとうございます。